

不動産の調査・測量、土地境界確認などを2業態連携で行う(株)グランデザインオフィス・山本土地家屋調査士事務所(安芸郡海田町堀川町1-1-8、山本賢治社長)は、重要文化財など設計図面が残されていない古い建物を3D計測するサービスを始めた。第1弾として「みやじまの宿(石物)」で実施。文化財や史跡などの保護、研究に加え、建物の魅力をアピールするVRの作成などにもつなげる。

県内の土地家屋調査士では珍しい3Dレーザースキャナー「Leica BLK360」を導入した。ドローン測量と併せて3Dレーザー測量を行うことで、上空、地上と建物内部の写真画像と点群データを組み合わせることができ、空間全体の形状や構造物の位置を3次元データ化。通常のVR映像と違い、レーザーを使用することで撮影したあらゆる場所の距離や長さ、奥行きを正確に測定できる。歴史的建造物には当時流行した建築技法や、材料が使われることが多いため、建築構造の研究などを想定。平面図では理解しにく

## 古い建物の3D計測サービス 文化財などの保護研究にも活用

グランドデザインオフィス

不動産の調査・測量、土地境界確認などを2業態連携で行う(株)グランデザインオフィス・山本土地家屋調査士事務所(安芸郡海田町堀川町1-1-8、山本賢治社長)は、重要文化財など設計図面が残されていない古い建物を3D計測するサービスを始めた。第1弾として「みやじまの宿(石物)」で実施。文化財や史跡などの保護、研究に加え、建物の魅力をアピールするVRの作成などにもつなげる。

い箇所の説明や部材の状態変化の把握、保全すべき箇所の正確な位置の決定などにも活用する。操作性にも優れ、通常の測量に比べ作業時間の大大幅な短縮につながるほか、短納期、低コストで提供できるという。バーチャルツマーカーを気軽に体験できるコンテンツとしても提案する。

山本社長は土地家屋調査士法人の倉本合同事務所(安芸郡海田町)などを経て2018年に独立。土地家屋調査業務に加え、ドローンなど最新技術の活用やインスペクション(住宅診断)など、「不動産ソリューションパートナー」として付加価値の創造に力を入れる。